

Express5800/MW アップデート適用手順書

本書は下記の製品が対象です

NP8100-1808YPCY Express5800/R110d-1M (MW400h2)

目次

はじめに	- 3 -
アップデートモジュール適用時の注意・制限事項.....	- 4 -
スタンドアロン構成	- 4 -
ロードバランスクラスタ構成.....	- 4 -
フェイルオーバークラスタ構成.....	- 5 -
1. オンラインアップデートの実施手順	- 7 -
2. オフラインアップデートの実施手順	- 13 -
3. コマンドラインからのアップデートの実施手順	- 18 -
4. RPM パッケージファイルの適用手順	- 20 -
5. バックアップの実施.....	- 22 -

はじめに

本ドキュメントは、Express5800/R110d-1M(MW400h2) (以下、MW と表記します)用に公開されているアップデートの適用手順について記載しています。

MW のアップデート適用方法には、以下4通りの方法があります。

オンラインアップデート

オンラインアップデートは、MW に必要なアップデートをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し、Management Console 画面から適用します

オフラインアップデート

オフラインアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。

コマンドラインからのアップデート

コマンドラインからのアップデートは、予め入手しておいてアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

RPM パッケージファイルの適用

RPM パッケージファイルの適用は、MW 用アップデートモジュールの適用ではなく、rpm ファイルを Management Console 画面から直接インストールします。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項

スタンドアロン構成

- アップデート適用前、適用後には MW のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュール適用後の再起動の必要性はアップデートモジュール毎に異なります。アップデートモジュール適用後の、再起動の要不要は各アップデートのリリースノートをご確認ください。

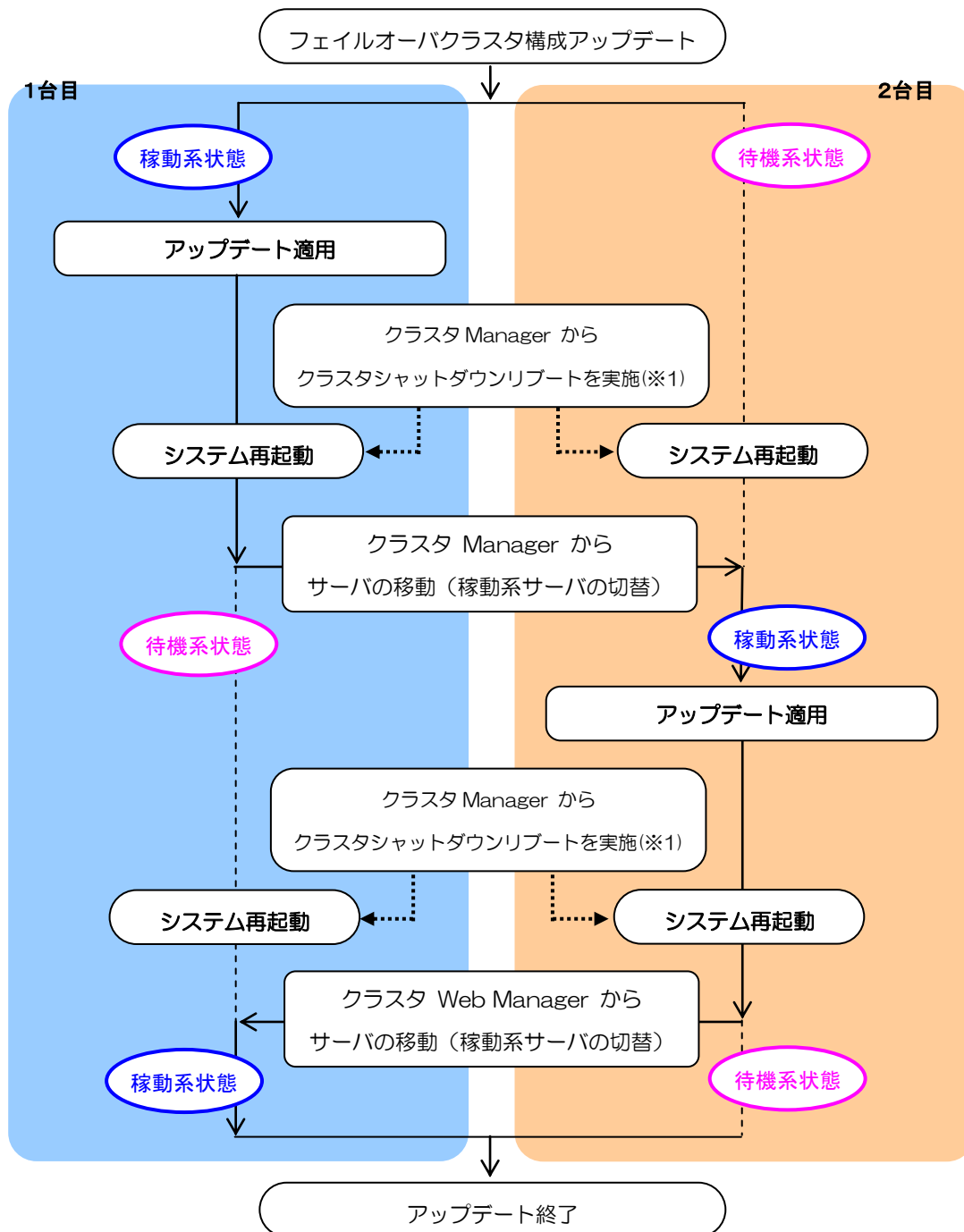
ロードバランスクラスタ構成

- アップデート適用前、適用後には MW のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュール適用開始前に、マスタサーバの Management Console「システム > ロードバランス」画面から「ミラーリング間隔」を“NO”に設定してください。すべてのサーバのアップデートが終了した後に、ミラーリング間隔を再設定してください。
- マスタサーバ、スレーブサーバの順にすべてのサーバに適用してください。
- アップデートモジュール適用開始前に、マスタサーバの Management Console「サービス」画面からすべてのサービスを“停止”してください。
(TELNET、サービス監視(chksvc)以外のサービスは、システム再起動により元の起動状態に戻ります)
- アップデートモジュール適用後の再起動の必要性はアップデートモジュール毎に異なります。アップデートモジュール適用後の、再起動の要不要は各アップデートのリリースノートをご確認ください。
- 再起動は、マスタから先にシステムの再起動を行って下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。

フェイルオーバークラスタ構成

- アップデートモジュール適用前、適用後には MW のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュールの適用は、適用するサーバを稼働系にして行ってください。
- アップデートモジュール適用後の再起動の必要性はアップデートモジュール毎に異なります。アップデートモジュール適用後の、再起動の要不要は各アップデートのリリースノートをご確認ください。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は必ずクラスタシャットダウンリブートをしてください。
オンラインアップデートやオフラインアップデートを実施した場合は、アップデートモジュール適用毎にクラスタシャットダウンリブートが必要です。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は、必ず稼働系の状態のままクラスタシャットダウンリブートしてください。
- クラスタシャットダウンリブートは、必ず CLUSTERPRO の Web マネージャ画面から行ってください。また、クラスタシャットダウンリブートは、稼働系サーバと待機系サーバとも同時に行ってください。

フェイルオーバークラスタ構成時の両系サーバにおける適用の流れは次のとおりです。



※1 システムの再起動が不要なアップデートのみ適用する場合は、上記手順中のクラスタシャットダウンリポートは、行う必要はありません。

1. オンラインアップデートの実施手順

オンラインアップデートは、MW に必要なアップデートをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。すべての操作は、システム管理者 Management Console 画面から行うことが出来ます。



オンラインアップデートを行われる場合は、MW がインターネット上のサーバに HTTP プロトコルにて接続可能な環境であることが必要です。

- (1) クライアント PC からシステム管理者 Management Console にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

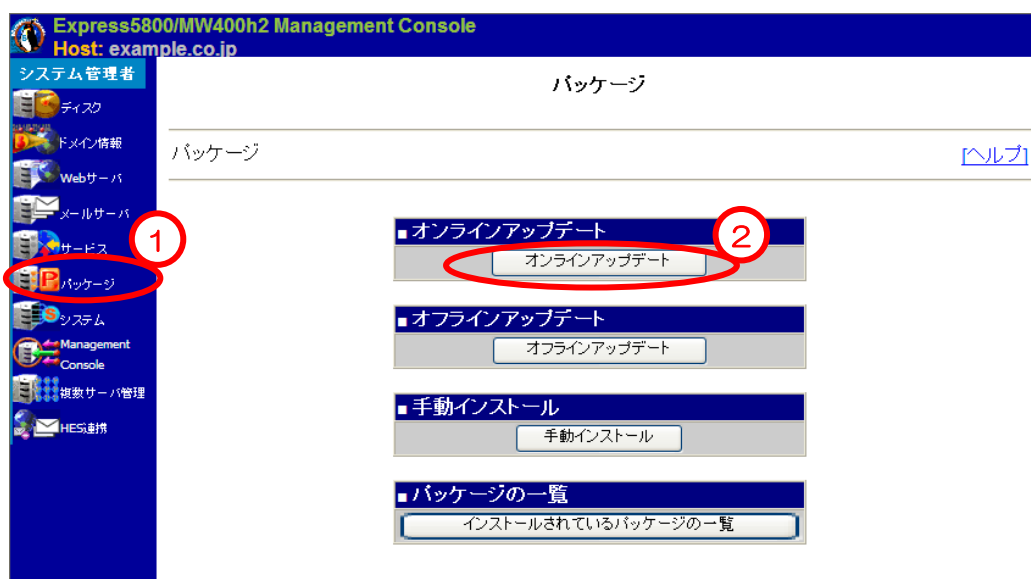
Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

- (2) 「パッケージ > オンラインアップデート」画面を開いてください。



(3) 「最新情報に更新」ボタンをクリックして、アップデート情報を取得してください。

オンラインアップデート

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

最終更新日付: なし

1 [最新情報に更新](#)

■ アップデートモジュール一覧

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません						

■ オプション設定

認証設定

☐ ユーザ認証を行う

ユーザID:

パスワード:

サポートID:

HW型番:

ダウンロード設定

☐ プロキシを使用する

プロキシアドレス:

プロキシポート番号:

☐ 取得済みのモジュールを再取得する

[設定](#)



「HW 型番」は変更しないでください。変更した場合、正しいアップデート情報を取得することができません。



サポート契約を行われている場合は、「■オプション設定」の「認証設定」の以下の項目にご契約情報を設定してください。

- 「ユーザ認証を行う」をチェックしてください
- 「ユーザ ID」、「パスワード」、「サポート ID」にご契約情報を設定してください。

アップデート公開サイトからアップデート情報が取得できたら、「アップデートモジュール一覧」に表示されます。（以下のアップデート情報は、説明用のものであり、実際のアップデートと異なる場合があります）

■ アップデートモジュール一覧					
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得 選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	<input type="checkbox"/> 未
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				engine_pkcs11-0.1.8-3.el5.i386.rpm	
				libp11-0.2.8-1.el5.i386.rpm	
				mailalert-0.3-8.i386.rpm	
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm	
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.el5.i386.rpm	
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm	



アップデート情報の各内容は以下のとおりです。

- | | |
|----------|--|
| 「公開日」 | アップデートが公開された日付を表示します |
| 「Rel.」 | アップデートバージョンを表示します |
| 「概要」 | アップデート名称を表示します |
| 「再起動」 | アップデート適用後の再起動要不要を表示します
(アップデートモジュール Rel1.0 適用後表示されます) |
| 「パッケージ名」 | アップデート対象の rpm ファイル名を表示します |

また、[取得]、[適用] ボタン欄は、それぞれアップデートのダウンロードの有無、ア

(4) 必要なアップデートモジュールを取得してください。

アップデートモジュールの[取得]欄のチェックボックスをチェックして、[取得]ボタンをクリックしてください。

■ アップデートモジュール一覧					
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得 選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	<input checked="" type="checkbox"/> 未
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				engine_pkcs11-0.1.8-3.el5.i386.rpm	
				libp11-0.2.8-1.el5.i386.rpm	
				mailalert-0.3-8.i386.rpm	
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm	
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.el5_5.i386.rpm	
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm	



未取得のアップデートモジュールが複数ある場合、[取得]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に取得対象としてチェックされます。

アップデートモジュール取得確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。

取得に成功すると、アップデートモジュール一覧の[取得]欄は、“済”と表示されます。

■ アップデートモジュール一覧					
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得 選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	<input checked="" type="checkbox"/> 済
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm	
				engine_pkcs11-0.1.8-3.el5.i386.rpm	
				libp11-0.2.8-1.el5.i386.rpm	
				mailalert-0.3-8.i386.rpm	
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm	
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.el5_5.i386.rpm	
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm	

(5) アップデートモジュールの適用を実行してください。

アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	済	<input checked="" type="checkbox"/>
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				engine_pkcs11-0.1.8-3.e15.i386.rpm		
				libp11-0.2.8-1.e15.i386.rpm		
				mailalert-0.3-8.i386.rpm		
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm		
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.e15.i386.rpm		
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm		



未適用のアップデートモジュールが複数ある場合、[選択]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に適用対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

パッケージ>オンラインアップデート

[\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。

アップデート適用

最終更新日付: 2012/10/03

[最新情報に更新](#)

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm		
				engine_pkcs11-0.1.8-3.e15.i386.rpm		
				libp11-0.2.8-1.e15.i386.rpm		
				mailalert-0.3-8.i386.rpm		
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm		
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.e15.i386.rpm		
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm		

- (6) 「アップデート適用」ボタンをクリックし、アップデートの適用をおこなってください。
- (7) 以下の場合は、システムの再起動をおこなってください。
アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合



フェイルオーバークラスタ構成の場合は、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から全サーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

2. オフラインアップデートの実施手順

オフラインアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。

オフラインアップデートでは、アップデートモジュール適用時にインターネットへの接続が可能な状態である必要はありません。

ここでは、予め入手した MW 用アップデートモジュール「NP8100-1808YPCY_UpdateModule-1.0.tgz」を CD-R メディアに格納しているものとして、オフラインアップデート手順についてご説明します。

- (1) クライアント PC からシステム管理者 Management Console にログインしてください。

Manangement Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

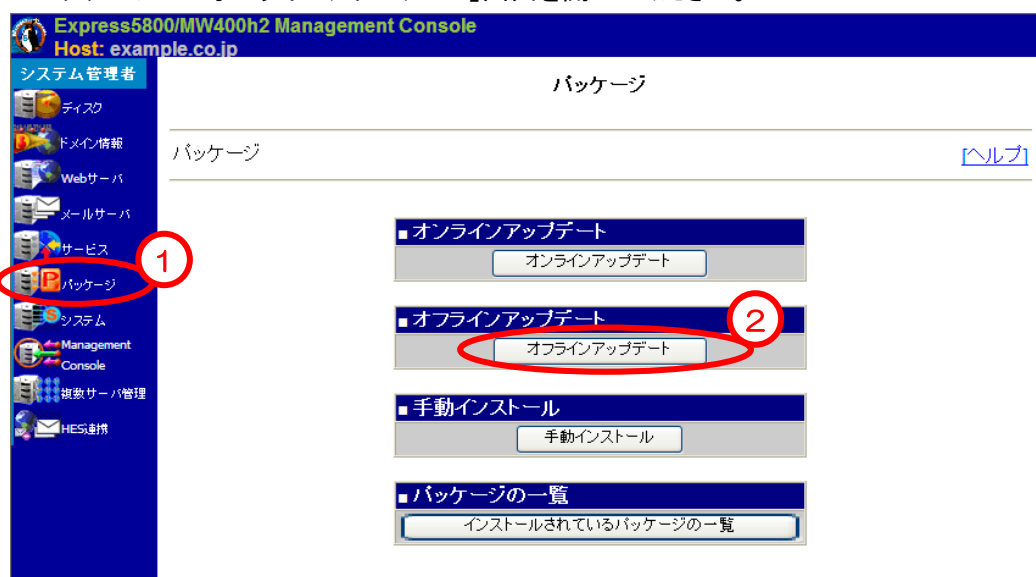
Manangement Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

- (2) 「システム > ディスク」の /dev/cdrom デバイスの「詳細」画面から、/dev/cdrom を /media/cdrom に接続(マウント)してください。
- (3) 「パッケージ > オフラインアップデート」画面を開いてください。



(4) CD-R を参照してください。

「ディレクトリ」に CD-R をマウントしているディレクトリ /media/cdrom を入力し、[参照]をクリックしてください。

「指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧」に、アップデート情報が表示されます。(オフラインアップデートでは、パッケージ名は表示されません)

■ ディレクトリ指定

ディレクトリ:

■ 指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2012/10/3	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0	mailalert-0.3-8.i386 pcsc-lite-libs-1.4.4-4.el5_5.i386 bind-utils-9.8.3-2.P3.i386 engine_pkcs11-0.1.8-3.el5.i386 bind-license-9.8.3-2.P3.i386 bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386 php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386 libp11-0.2.8-1.el5.i386 bind-libs-9.8.3-2.P3.i386 bind-devel-9.8.3-2.P3.i386 openssl-0.12.2-2.i386 bind-9.8.3-2.P3.i386	<input type="checkbox"/>

■ アップデートモジュール一覧

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません						

(5) アップデートモジュールの取得を実行してください。

アップデートモジュールの[適用]欄のチェックボックスをチェックして、[適用]ボタンをクリックしてください。

■指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧			
公開日	Rel.	概要	パッケージ名
2012/10/3	1.0	Express5800/MW400h2 アップデートモジュール Rel 1.0	mailalert-0.3-8.i386
			pcsc-lite-libs-1.4.4-4.el5_5.i386
			bind-utils-9.8.3-2.P3.i386
			engine_pkcs11-0.1.8-3.el5.i386
			bind-license-9.8.3-2.P3.i386
			bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386
			php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch
			bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386
			libp11-0.2.8-1.el5.i386
			bind-libs-9.8.3-2.P3.i386
			bind-devel-9.8.3-2.P3.i386
			opensec-0.12.2-2.i386
			bind-9.8.3-2.P3.i386

アップデートモジュールを MW のローカルディスクに格納するメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。



参照しているディレクトリにアップデートモジュールが複数ある場合、[適用]をチェックしたアップデートのみが、アップデート適用対象となります。未適用のアップデートが複数ある場合は、アップデートバージョンが古いものから順にすべて適用してください。

(6) アップデートモジュールの適用を実行してください。

アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MM400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input checked="" type="checkbox"/>
				engine_pkcs11-0.1.8-3.e15.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				libp11-0.2.8-1.e15.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				mailalert-0.3-8.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.e15_5.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm		<input type="checkbox"/>



未適用のアップデートモジュールが複数ある場合、[選択]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に適用対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[\[戻る\]](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。

アップデート適用

最終更新日付: 2012/10/03

[最新情報に更新](#)

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2012/10/03	1.0	Express5800/MM400h2 アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]	不要	bind-9.8.3-2.P3.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>
				bind-chroot-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-devel-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-libs-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-license-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-pkcs11-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				bind-utils-9.8.3-2.P3.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				engine_pkcs11-0.1.8-3.e15.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				libp11-0.2.8-1.e15.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				mailalert-0.3-8.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				opensc-0.12.2-2.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				pcsc-lite-libs-1.4.4-4.e15_5.i386.rpm		<input type="checkbox"/>
				php-pear-Mail-mimeDecode-1.5.0-6.noarch.rpm		<input type="checkbox"/>

- (7) 「アップデート適用」ボタンをクリックし、アップデートの適用をおこなってください。
- (8) 以下の場合は、システムの再起動をおこなってください。
アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合



フェイルオーバークラスタ構成の場合は、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から全サーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

3. コマンドラインからのアップデートの実施手順

コマンドラインからのアップデートは、予め入手しておいてアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

コマンドラインからのアップデートでは、複数のアップデートをシステムの再起動なしに適用することができます。システムの再起動は、すべてのアップデートを適用した最後に行うことができます。

ここでは、予め入手した MW 用アップデートモジュール「NP8100-1808YPCY_UpdateModule-1.0.tgz」を MW の /tmp ディレクトリにコピーされているとして説明します。

- (1) サービスを停止させてください。

Management Console「サービス」画面からすべてのサービスを停止してください。

ただし、ログインに使用するサービス(sshd または telnetd)、フェイルオーバークラスタ構成の場合はクラスタプロ(CLUSTERPRO X)サービスや sshd サービスは停止しないでください。

- (2) MW にログインしてください。



アップデートの実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

- (3) /tmp ディレクトリに移動し、アップデートモジュールを展開してください。

```
# cd /tmp
# tar xvfz NP8100-1808YPCY_UpdateModule-1.0.tgz
```

NP8100-1808YPCY_UpdateModule-1.0 ディレクトリが作成されます。

- (4) NP8100-1808YPCY_UpdateModule-1.0 ディレクトリ配下に移動してください。

```
# cd NP8100-1808YPCY_UpdateModule-1.0/command
```

- (5) アップデートコマンドを実行してください。

```
# perl MailWebServer_UpdateModule.pl
```

アップデートの実行状態が表示されます。

```
---Script Start-----  
アップデート情報が表示されます  
---Script End-----
```

- (6) 以下の場合は、システムの再起動をおこなってください。

- ① アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合



フェイルオーバークラスタ構成の場合は、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面からクラスターシャットダウンリブートをおこなってください。

- (7) サービスを起動してください。

(1)で停止したサービスを Management Console「サービス」画面から起動してください。

4. RPM パッケージファイルの適用手順

RPM パッケージファイルの適用は、MW 用アップデートモジュールの適用ではなく、rpm ファイルを直接インストールします。

ここでは、予め入手した MW 用の rpm ファイルを CD-R メディアに格納しているものとして、RPM パッケージファイルの適用手順についてご説明します。

- (1) クライアント PC からシステム管理者 Management Console にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

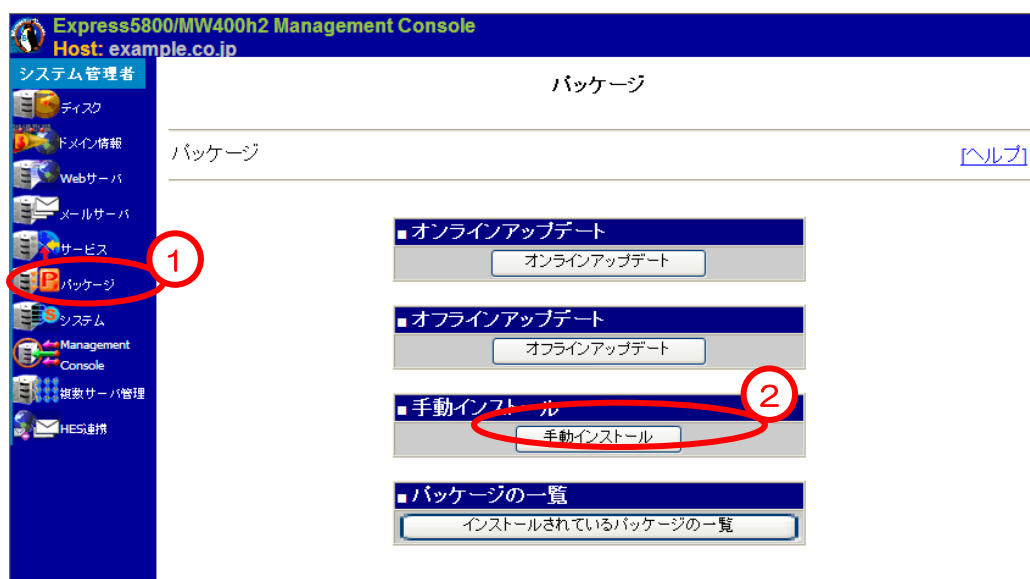
Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`

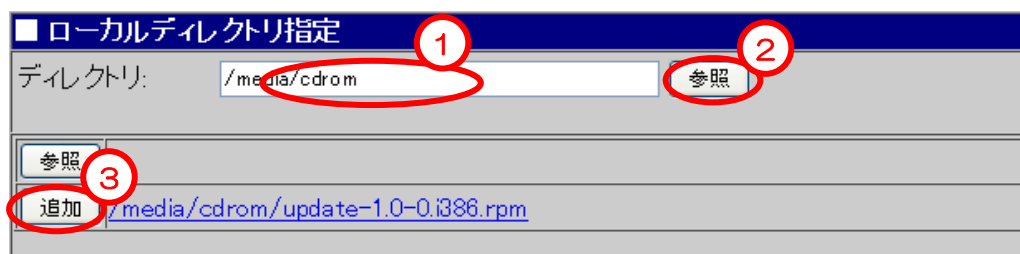


URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

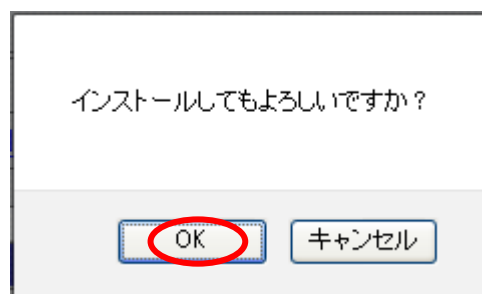
- (2) 「システム > ディスク」の /dev/cdrom デバイスの「詳細」画面から、/dev/cdrom を /media/cdrom に接続(マウント)してください。
- (3) 「パッケージ > 手動インストール」画面を開いてください。



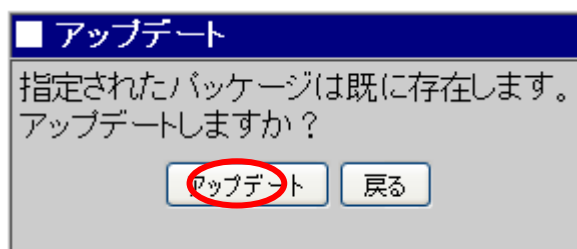
- (4) CD-R を参照してください。
「ディレクトリ」に CD-R をマウントしているディレクトリ /media/cdrom を入力し、[参照]をクリックしてください。
指定されたディレクトリに含まれる rpm ファイルが表示されます。



- (5) 適用する rpm ファイルの[追加]をクリックしてください。



インストール確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。



適用する rpm ファイルがアップデートされる場合は、アップデート確認のメッセージが表示されますので[アップデート]をクリックしてください。

5. バックアップの実施

アップデートモジュールを適用する前や、適用した後には、MW のバックアップを行われることを推奨します。

アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻ることとなった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。



バックアップデータをリストアする場合、MWのアップデート適用状態はバックアップ実行時と同じ状態にされていることを想定しています。例えば、アップデート Rel.1.2 適用状態でバックアップしたデータは、同じく Rel.1.2 適用状態でリストアされることを想定しています。

バックアップ、リストアについては、ユーザーズガイドや Management Console のオンラインヘルプに詳しい説明がごさいます。